

授業 科目名	日常生活活動学 (Activities of Daily Living)	履修年次: 必修: 作業 2 年	単位数: 1 単位 15 時間 コード: ROP211	担当教員名: 藤田佳男[作業療法士] (仁戸名研究室 5)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム, Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 ・日常生活活動の概要, 指導, 訓練方法について理解する。 ・日常生活活動を評価する方法について理解する				
〔授業の概要〕起居、移乗、移動などの基本動作から食事、排泄、更衣、整容、入浴、コミュニケーションなどの基本的 ADL の概要、評価 (FIM、BI など) および家事、交通機関の利用などの手段的日常生活活動について、その指導、訓練方法を系統的に講義にて修得する。病院で勤務経験がある作業療法士の実務経験に基づき実施する。				
キーワード: 日常生活活動、セルフケア、手段的日常生活活動				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第 1 回	11/21 4 限	総論	日常生活活動とは? ICF および生活との関連	
第 2 回	11/28 3 限	基本動作	起居・床上・移乗動作	
第 3 回	11/28 4 限	基本的日常生活動作①	更衣、整容、排泄 (トイレ動作)	
	12/5	休講 (卒業研究発表会)		
第 4 回	12/12 3 限	基本的日常生活動作②	食事と嚥下の機能、入浴、家事動作	
第 5 回	12/12 4 限	ADL 評価①	さまざまな評価と特徴, Barthel Index, FIM (Functional Independence Measure)	
第 6 回	12/19 3 限	ADL 評価②	FIM (Functional Independence Measure)	
第 7 回	12/19 4 限	手段的日常生活活動	手段的日常生活活動の種類と評価・指導	
第 8 回	1/9 3 限	まとめ	全体のまとめ	
予備日	1/23			
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習には配布資料を用いることを推奨する。		
テキスト		濱口 豊太編, 標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学第 2 版 医学書院 千野直一ら, 脳卒中の機能評価 SIAS と FIM (基礎編) 金原出版		
参考書・参考資料等		生田宗博編「I・ADL 作業療法の戦略・戦術・技術」三輪書店 鎌倉矩子ら, ADL とその周辺 第二版 評価と指導の実際 医学書院		
学生に対する評価		定期試験 (70%), 課題 (20%), 授業態度 (10%) で総合的に評価する。		

※30 分以上の遅刻は欠席として扱う。

※状況により時間割以外の日時で実施する可能性があるため注意すること

授業 科目名	日常生活活動学演習 (Practices of skills of Activities of Daily Living)	履修年次: 必修: 作業 3 年	単位数: 1 単位 30 時間 コード: ROP305	担当教員名: 藤田佳男[作業療法士] (仁戸 名研究室 5) 有川真弓 清水 大輝, 坂田祥子 (非常勤講師) 對間泰雄 (特別講義講師)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム, Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本科目は「日常生活活動学」の知識を基にして、以下のことを目標として学習する。 1. 各障害・時期などに応じた対象者の日常生活活動 (ADL) の特徴を理解し、説明することができる。 2. 各障害・時期などに応じた ADL の支援方法を理解する。 3. 対象者の ADL に対する評価から支援までの一連の流れを学び、支援方法を実施することができる				
〔授業の概要〕「日常生活活動学」の講義を基盤として、基本動作と日常生活活動に関する作業療法につ いて、支援計画の立案および指導方法、実技等を習得する。また、基本動作と日常生活活動に対する作 業療法について、臨床実習を想定し学生相互の討論および実技実習等で理解と経験の習得を図る。病院 勤務の経験がある教員の実務経験により実施する。				
キーワード: 疾患別 ADL、作業療法支援、計画立案と実施				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1-3 回	4/10 1-3 限	基本動作の援助,指導法	ADL の基本となる起居,立ち上がり, 移乗動作の支援 トイレ動作の支援	
第 4-6 回	4/17 1-3 限	ADL 援助,指導法	入浴動作等の支援, 更衣動作、歩行の支援	
第 7, 8 回	4/24 1, 2 限	脳血管障害者の ADL	脳血管障害者への作業療法支援 (非常勤講師/坂田祥子)	
第 9, 10 回	5/1 2, 3 限	発達障害関連の ADL	小児発達領域の作業療法支援 (有川真弓)	
第 11, 12 回	5/8 2, 3 限	精神障害関連の ADL	精神障害領域の作業療法支援 (清水大輝)	
第 13, 14 回	5/15 2, 3 限	脊髄損傷者の ADL	脊髄損傷者への作業療法支援 (特別講義講師/對間泰雄)	
第 15 回	5/22 2, 3 限	まとめ	全体のまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習には配布資料を用いることを推奨する。		
テキスト		日常生活活動学で指定したもの		
参考書・参考資料等		日常生活活動学で指定したものその他、授業で適宜紹介する		
学生に対する評価		レポート・発表・実技 (70%)、学習態度 (30%) により、総合的に評価する		

※30 分以上の遅刻は欠席として扱う。

※授業の実施時限や詳しい実施内容については開始日に配布する資料を確認すること

※科目責任者が担当する授業は実技を含むため実習衣やジャージなど動きやすい服装で参加すること

授業科目名： 義肢装具学 (Practice for Assistances of Activities of Daily Living)	必修：作業 3 年	1 単位 30 時間	担当教員名： 松尾真輔、吉野智佳子 (仁戸名研究棟 6)	
		コード：ROP212		
	実務経験のある教員による授業科目			
〔DP〕 III. 実践に必要な知識 IV 健康づくりの実践 V. 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. 義肢（義手・義足）、四肢体幹の運動機能障害等に用いられる装具について理解する				
2. 主に上肢装具での実際の製作を通して、適合判定（チェックアウト）の方法を知る。				
3. 主に義手での実際の製作を通して、適合判定（チェックアウト）の方法を知る。				
〔授業の概要〕				
本科目では、四肢の欠損に用いられる義肢（義手・義足）、四肢体幹の運動機能障害等に用いられる装具について理解を深め、定義、種類、名称などについて学修する。また、対象者を評価し、アプローチするための基礎的な知識と技術を習得するために、実際の製作を通して、義肢装具の適合判定の方法、アプローチ方法などについて学修する。				
キーワード：事例検討、採型、スプリント製作、適合判定				
〔授業計画〕				
回 数	日付 ○限	テ ー マ	内 容	担 当 者
第 1 回	4/14 ③④	オリエンテーション 装具①② 義肢装具室	装具総論 装具の適用と製作のポイント	吉野智佳子
第 2 回	4/21 ③④	装具③④ 義肢装具室	上肢装具、下肢装具、体幹装具 スプリント製作	吉野智佳子、 松尾真輔
第 3 回	4/28 ③④⑤	装具⑤⑥⑦ 義肢装具室	スプリント製作	吉野智佳子、 松尾真輔
第 4 回	5/12 ③④⑤	装具⑧、義肢①② 義肢装具室	スプリント製作 切断と義肢 義手・義足の 適用と製作のポイント	吉野智佳子、 松尾真輔
第 5 回	5/19 ③④	義肢③④ 義肢装具室	前腕能動仮義手作成	吉野智佳子
第 6 回	6/2 ③④	義肢⑤⑥ 義肢装具室	前腕能動仮義手作成	吉野智佳子
第 7 回	6/9 ③	義肢⑦ 義肢装具室	適合判定・模擬使用体験	吉野智佳子
履修条件		特になし		
予習・復習		講義の都度に資料の整理に努め、内容の確認を行うこと。		
テキスト		清水順市 他 編集：リハビリテーション義肢装具学. メジカルビュー社		
参考書・参考資料等		・作業療法学全書「改定第 3 版第 9 巻 義肢装具学」 ・沢村誠志 監修：義肢学 第 3 版. 医歯薬出版社 ・加倉井周一 監修：装具学 第 4 版. 医歯薬出版社		
学生に対する評価		定期試験 40%、課題・製作 60%、学習態度＋α		

授業 科目名	福祉機器論 (Assistive Technology and Technical Aids)	履修年次: 必修: 作業 3 年	単位数: 2 単位 30 時間 コード: ROP213	担当教員名: 藤田佳男[作業療法士] (仁戸 名研究室 5)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム, Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本科目では、作業療法士の専門性のひとつである福祉機器の選定と適合についての知識・技術を習得する。履修後に以下のことができることを目標とする。 1. 基本動作、ADL および IADL に関連する福祉機器の機能や適応を理解し、説明することができる。 2. さまざまな障害やその程度に応じて適切な福祉機器や対処方法を選定することができる。 3. 福祉機器（住宅改修等を含む）を用いた環境調整方法を理解し、説明することができる。				
〔授業の概要〕 福祉機器および住環境の整備について、さまざまな活動別に選定および適合方法について学習する。出来る限り実際の用具に触れて操作方法や指導方法を習得する。必要に応じてグループワークや発表なども行う。福祉用具展示場に勤務経験がある教員の実務経験により実施する				
キーワード: 福祉用具、テクニカルエイド、アシスティブテクノロジー				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第 1-3 回	11/18 3-5 限	総論,基本動作,食事,排泄	総論,食事動作,排泄動作の福祉用具 起居、床上動作、移乗動作の福祉用具	
第 4-6 回	11/25 3-5 限	整容,更衣,入浴 IADL	整容動作、更衣動作、入浴動作、IADL に関する福祉用具	
第 7-9 回	12/2 3-5 限	移動,PC,ECS,認知機能, コミュニケーション	移動と外出支援用具、PC 関連、環境制御装置など重度障 害者のための福祉用具	
第 10-12 回	12/9 3-5 限	住環境,自動車 課題製作	家事動作の福祉用具、住環境整備、自動車 製作実習	
第 13-15 回	12/16 3-5 限	授業内試験 課題製作	授業内試験 製作実習	
	12/23	予備日		
	1/6	予備日		
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習には配布資料を用いることを推奨する。		
テキスト		山中武彦編,作業療法学ゴールドマスターテキスト 福祉用具学 (改訂第 2 版) メジカルビュー		
参考書・参考資料等		授業で適宜紹介する指示する		
学生に対する評価		レポート・発表・実技 (70%)、学習態度 (30%) により、総合的に評価する		

※30 分以上の遅刻は欠席として扱う。

※授業の実施時限や詳しい実施内容については開始日に配布する資料を確認すること

※科目責任者が担当する授業は実技を含むため実習衣やジャージなど動きやすい服装で参加すること

授業 科目名	地域社会参加支援学 Community participation based Occupational Therapy	履修年次: 必修: 作3 年	単位数: 1 単位 15 時間 コード: ROP214	科目責任者 岡村太郎 成田悠哉 (仁戸名研究棟 8) 酒井ひとみ, 関美行, 松本 直之 [作業療法士] (非常勤 講師室)
[DP] III 実践に必要な知識, IV 健康づくりの実践, V 健康づくりの環境の整備・改善, VI 多職種との協働				
[授業の到達目標及びテーマ] 本講義では、地域への社会参加・就労支援のリハビリテーション固有の視点を踏まえながら、基礎理論や活用できる制度、就労支援・地域社会参加への手法と実施を学ぶことを通して、社会参加・就労支援における OT の役割を明確化し、実践のための基礎的知識の習得を目指す。				
[授業の概要] 作業療法士の視点を重視して、ICF による「参加」・「環境・個人因子」に含まれる要素のうち、地域社会参加・職業関連等に関する作業療法の対象者への治療的内容について、知識と技術を習得する。本科目は、オムニバス方式による講義を中心に、地域社会参加支援の基礎概念と実践は酒井先生、就労支援は関先生、国内外の実践を松本先生が担当する。				
キーワード: 活動・参加, 環境因子, 職業リハビリテーション, 就労支援, 障がい者				
[授業計画]				
回数	日付	テ マ	内 容	担当
第1回	6/6Ⅲ	1. ガイダンス・地域社会参加と就労	地域社会参加と就労の概念と変遷 エビデンスに基づいた理論紹介 (オープン ダイアログ・未来語りのダイアログ)	酒井 岡村
第2回	6/6Ⅳ	2. 地域社会参加支援と作業療法士の役割	多領域の地域社会参加支援の基礎概念と 知識	酒井(岡村)
第3回	6/6Ⅴ	3. 地域社会参加支援と作業療法士の役割	国内の実践 1. 地域社会参加 (貧困)	酒井(岡村)
第4回	6/20Ⅳ	4. 職業リハビリテーションの実践 1	国内の実践 2. 就労支援・職業リハビリテ ーション	関(成田)
第5回	6/20Ⅴ	5. 職業リハビリテーションの実践 2	国内の実践 2. 就労支援・職業リハビリテ ーション	関(成田)
第6回	6/27Ⅲ	6. 地域社会参加の実践 1	国内の実践 3. 地域社会参加 (高齢者)	松本(成田)
第7回	6/27Ⅳ	7. 地域社会参加の実践 2. ※試験案内	諸外国の実践 1. イタリア	松本(成田)
第8回	7/18Ⅲ	8. 地域社会参加・職リハの歴史と理論	諸外国の実践 2. カナダ・フィンランド	酒井(関・松 本・岡村・成 田)
履修条件		特になし		
予習・復習		上段テーマ毎に、地域社会参加支援の基礎となる概念と知識について指定テキストを通読し、自宅学習課題に取り組む。授業ごとに、課題を設定する。		
テキスト		「オープンダイアログ」ヤーコ・セイラック/トム・エーリック [著], 高木俊介/岡田愛 [訳], 日本評論社, 2016.		
参考書・参考資料等		「標準作業療法学 ADL・社会生活行為学」濱口豊太 (編集), 医学書院, 2014. 「トリエステ精神保健サービスガイドー精神病院のない社会へ向かって」トリエステ精神保健局 (編集) 2004, 小山昭夫 (翻訳), 現代企画室, 2006. 「精神病院はいらない! イタリア・バザリア改革を達成させた愛弟子 3 人の証言」現代書館, 2016. 「人生、ここにあり!」ジュリオ・マンフレドニア (監督) DVD 「オープンダイアログとはなにか」斎藤環 (訳+著) 医学書院, 2015. 「あなたの心配ごとを話しましょう」トム・エーリック他著, 高橋睦子訳, 日本評論社, 2018. 「開かれた対話と未来 今この瞬間に他者を思いやる」ヤーコ・セイクラ / トム・アーンキル (著), 医学書院, 2019.		
学生に対する評価		レポート課題 (30%), 実技試験 (70%) により、総合的に評価する。 ※実技試験は 7/18 の授業後に実施する。		

授業 科目名	授業科目名： 地域社会参加支援学演習 A seminar of rehabilitation in the community	履修年次： 必修科目・作業 3年後期	単位数： 1単位 30時間 コード：ROP306	担当教員名：[作業療法士] 科目責任者 須藤崇行 (研究室：東校舎棟2) 有川真弓、坂尾梨菜、清水 大輝（五十音順）
[DP] III. 実践に必要な知識 IV. 健康づくりの実践 V. 健康づくりの環境の整備・改善 VI. 多職種との協働				
[授業の到達目標及びテーマ] 少子・高齢社会を迎えた日本では、地域社会における在宅医療やケアの重要性が高まっている。作業療法士が対象者に対し、ICF という参加に介入することは、在宅生活の行動範囲の拡大や社会での役割を持つことに繋がる。本科目では、この観点から対象者に対する社会的参加支援をテーマに演習形式で講義を進める。				
[授業の概要] 演習形式により、ICF による「参加」、及びそれを支える「環境・個人因子」に介入する作業療法士の役割や課題について理解する。 （本授業はオムニバス方式により行い、施設から在宅への移行支援、訪問リハビリにおける作業療法士の活動、精神障害者への社会的適応支援、作業療法士による就学前、及び学校生活における社会的適応支援について事例を通して理解を深める。 キーワード：社会的適応支援、在宅生活支援、訪問リハビリ、就学・就労支援				
[授業計画]				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	11/13 1.2限	精神障害者への社会的適応支援	事例：精神障害者に対する社会的 適応支援①・②	清水大輝
第2回	11/20 1.2限	精神障害者への社会的適応支援	事例：精神障害者に対する社会的 適応支援③・④	清水大輝
第3回	11/27 1.2限	施設から在宅への移行支援	事例：老健からの移行支援①・②	須藤崇行
第4回	12/4 1.2限	施設から在宅への移行支援	事例：老健からの移行支援③・④	須藤崇行
第5回	12/11 1.2限	訪問リハビリにおける作業療法士 の活動	事例：訪問リハビリにおける作業 療法の実践①・②	坂尾梨菜
第6回	12/18 1.2限	訪問リハビリにおける作業療法士 の活動	事例：訪問リハビリにおける作業 療法の実践③・④	坂尾梨菜
第7回	1/8 1.2限	作業療法士による就学前、及び学 校生活における社会的適応支援	事例：学校生活における支援①・ ②（特別講義）	酒井康年
第8回	1/15 1.2限	作業療法士による就学前、及び学 校生活における社会的適応支援	事例：就学前における支援①・②	有川真弓
履修条件	特になし。			
予習・復習	4 パートで構成されているので、各々の講義について内容をよく再確認して復習する。			
テキスト	各講師より各々提示する。			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	課題発表（50%）、課題（30%）、日常の学習態度（20%）により、総合的に評価する。			

授業 科目名	地域作業療法学 (Community-based Occupational Therapy)	履修年次: 必修: 作業 3 年	単位数: 2 単位 30 時間 コード: ROP215	担当教員名:須藤崇行[作業 療法士] (研究室: 東校舎棟 2) 藤田佳男,松尾真輔,大熊 明 (非常勤講師) ,露崎雄太, 今野和成 (特別講義講師)
		実務経験のある教員による授業科目		

〔DP〕Ⅳ 健康づくりの実践 Ⅵ 多職種との協働 Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
本授業では、作業療法士に必要な地域リハビリテーションの概念と枠組みを理解し、その枠組みにおける作業療法の位置づけを理解する。その上で、地域で作業療法を実践していくための知識と方法について学び得ることを目標とする。				
〔授業の概要〕				
本科目は講義および演習形式により、社会保障制度の枠組みを理解し、医療保険、介護保険関連だけではなく地域生活で幅広く作業療法がかかわる領域とその実践について理解をする。また、治療・訓練という視点だけではなく、地域において作業療法が対象とする「健康の維持」「健康の増進」についても理解を深める。				
キーワード: 社会保障、地域包括ケアシステム、生活行為向上マネジメント				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1, 2 回	4/9 3, 4 限	概論, 地域作業療法	地域リハビリテーションの概略を理解する 須藤崇行	
第 3, 4 回	4/16 3, 4 限	社会資源, 制度	地域生活に必要な社会資源や制度を理解する 藤田佳男, 須藤崇行	
第 5, 6 回	4/23 3, 4 限	実践過程①	身体分野および訪問の地域作業療法を学ぶ 須藤崇行	
第 7, 8 回	4/30 3, 4 限	実践過程②	生活行為向上マネジメントを理解する 松尾真輔	
第 9, 10 回	5/7 3, 4 限	実践課程③	地域包括ケアシステムを理解する (特別講義講師/露崎雄太)	
第 11, 12 回	5/14 3, 4 限	実践課程④	地域ケア会議での連携を理解する (特別講義講師/今野和成)	
第 13, 14 回	5/21 3, 4 限	実践課程⑤	災害時の地域作業療法 (特別講義講師/今野和成)	
第 15 回	5/28 3, 4 限	実践過程⑥, まとめ	地域づくりと作業療法 (非常勤講師/大熊明)	
予備日	6/4, 6/11, 6/18			

履修条件	特になし
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習には配布資料を用いることを推奨する。
テキスト	標準作業療法学「地域作業療法学 改訂第 4 版」大熊明 編、医学書院
参考書・参考資料等	適宜授業時間内に紹介する。
学生に対する評価	定期試験 60％ 学習態度 (課題提出含む) 40％ 総合的に評価する

※30 分以上の遅刻は欠席として扱う。

※日程の変更や、実施方法の変更があり得るため、予備日に授業を行うことがある。

授業 科目名	作業療法総合演習 Intergrated Seminar of Occupational Therapy	履修年次	単位数：1 単位	担当教員名： 科目責任者 岡村太郎(仁戸名研究室 8)藤田佳男、有川真弓、松尾真輔、須 藤崇行、成田悠哉、清水大輝[作業療法 士]
		選択通年 4 年	コード：ROP401	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ. 倫理観とプロフェッショナルリズム、Ⅲ. 実践に必要な知識Ⅳ健康づくりの実践、Ⅶ. 生涯にわたる探究心と 自己研鑽				
授業の到達目標及びテーマ] 作業療法士として必要な専門的知識・臨床技能が習得できているか確認し、振り返りを行う。 1. 作業療法における基本的な専門職知識や臨床技能が備わっている 2. 自身の課題を明確にし、解決するために適切な対応をとることができる。 3. 作業療法士国家試験受験に対応できる知識・技術・情意が備わっていること				
〔授業の概要〕 作業療法の高度化するニーズに対応するため、自らの興味関心や課題に基づき主たるテーマを立て、テーマに則した専門 的な知識や技術を修得する。グループ演習形式によりそれぞれのテーマを深く具体的に学修した後、作業療法士の国家試 験レベルの総合的学力評価と作業療法学専攻のコンピテンシー等をもとにフィードバック行い、問題を解決する方法を身 ける。				
キーワード：総合演習、専門的知識・臨床技能、問題解決能力				
〔授業計画〕 7 月から 1 月初旬まで実施。外部模試・模試火曜 3 限目 7/8. 115. 22. 29. 8/5(任意参加 8/19. 26. 9/2. 9. 16. 23. 30) 10/7. 21. 28. 11/4. 11. 18. 25. 12/2. 9. 15. 16. 23. 1/6. 13. 実施予定				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第 1 回	4/3	オリエンテーション	演習の進め方、注意事項に関する説明	4 年担任成 田 (岡村)
		総合実習中		
第 2 回	7/7～ 8/8	グループ演習 学習計画と実施	学習態度・成績を反映し、必要に応じて学習 グループと担当教員を担当が案作成し、専攻 会議の義を経決定する。	全教員
第 3 回～ 第 5 回	8/11～ 9/30 10/1～ 10/31	グループ演習 筆記試験	各グループの学習計画のチェックは、主担当 教員が計画・実施・チェック・実行を促し、学 生が決定する。	全教員
第 6 回～ 第 7 回	11/4～ 11/28	グループ演習 筆記試験	・各テーマに関するグループ学習 ・適宜主担当教員のフィードバックを受け、 問題解決に取り組む	全教員
第 8 回～ 第 9 回	12/1～ 12/23	グループ演習 筆記試験	・外部・内部模試による知識の確認 ※学生はグループ演習を実質 30 時間確保す ること。	全教員
第 10 回～ 第 12 回	1/5～ 1/30	グループ演習 筆記試験	※各グループより、グループ担当学生を選出 し、担任まで報告すること。	全教員
第 13 回～ 第 15 回	2/2～ 2/6	グループ演習 筆記試験	外部模試のみ国家試験と同じ時間帯で実施し ます。	全教員
履修条件		1. 2 年の必修科目履修済みのこと		
予習・復習		これまでの講義・演習資料、QB 参考書を用いて、計画的に学習すること。		
テキスト		クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 共通問題		
参考書・参考資料等				
学生に対する評価		毎回 (週 1) 過去問の内部模試・外部模試の筆記試験の実施 (90%)、グループ活動 による学習態度 (10%) により、総合的に評価する。12 月末時点の成績を総合評価 として評価とする。グループの活動を週末にチームスに報告してください。		

授業科目名： 作業療法学特論 A Specialized research in occupational therapy, A	履修年次： 選択：作 4 年	1 単位 1 5 時間 コード:ROP307	担当教員名： 科目責任者 岡村 太郎（研究 室：仁戸名研究棟 8）・清水大輝
実務経験のある教員による授業科目			
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅳ 健康づくりの実践 Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 (1) 卒業論文のテーマを選択提出できる (2) 卒業論文の倫理審査提出受理されることができる (3) テーマに則して研究計画の目標を立てることができる (4) テーマに則して研究計画のプロトコル作成手順にいて作成できる (5) 卒業研究の発表（プレゼンテーション）ができる (6) 論文の書式にしたがって論文の執筆・提出ができる			
〔授業の概要〕 保健・医療・福祉の分野において、作業療法の高度化するニーズに対応する必要がある。本科目は、学生の各自の問題・課題の意識を動機付けにした分野・テーマに取り組む。分野・テーマは「 <u>作業療法に関する認知行動療法</u> 」または、その関連した内容に取り組む。選択したテーマの作業療法の専門的な知識や技術を修得する。複数選択できる。			
キーワード：プロトコル作成，研究計画，研究テーマ			
〔授業計画〕			
回数	テ ィ マ ・ 内 容		
第 1 回	テ ィ マ : 「作業療法に関する認知行動療法」等について		
第 2 回	内 容 : 第 1 回から第 8 回まで通年（臨床実習期間を除く）で 2 週に 1 回程度受ける事する。		
第 3 回	1. 学生は、問題・課題の意識を動機付けにした上記テーマに取り組む		
第 4 回	1) 学生は、研究テーマを述べることができる。		
第 5 回	2) 学生は作業療法学特論の指導について、自ら助言・相談を教員より積極的に受けることができる。		
第 6 回	3) 学生は研究を実践する過程で、解決方法を見出すための助言・指導等（臨床実習期間を除く）の講義を、受ける事とする。（学生は担当教員と相談の上、実質講義・指導時間が 15 時間は確保するよう学生と相談の上、時間を確保する事とする。）		
第 7 回	2. 作業療法学特論の指導される目標は以下に示す。		
第 8 回	1) 各自学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、研究デザインに応じた作業療法学専攻の倫理審査を受ける準備を述べることができる。		
第 9 回	2) 各自学生はデザインした研究を開始するための実験、調査等の準備を述べるができる。		
第 10 回	3) 各自学生は計画した実験、調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整について述べることができる。		
第 11 回	4) 各自学生は実験、調査等データの解析と解釈について、根拠を述べることができる。		
第 12 回	5) 各自学生が卒業研究発表と卒業論文として記述する方法を述べることができる。		
第 13 回	6) 卒業研究論文は執筆要領に沿った論文の原稿作成、投稿の準備について述べるができる。		
第 14 回	選択は卒業研究担当の主担当教員同じがのぞましいが、前期・後期を通じて各自の卒業研究のテーマとは別に複数者から専門的な指導を受けることができる。論文の原稿作成、投稿、発表までの過程の卒業研究担当の主担当教員とは別に助言を受けることができる。		
履修条件	学生は、選択時、教員に直接訪ねても構わない。積極的な行動が望まれる。		
予習・復習	受講する担当教員の適宜指示に従うこと。		
テキスト	受講する担当教員と相談のこと。		
参考書・参考資料等	受講する担当教員より提示される。		
学生に対する評価	レポート課題（50%）、学習態度（30%）、テスト（20%）により、総合的に評価する。（学生評価については、履修登録前に各担当教員へ確認すること。）		

授業 科目名	作業療法学特論 B Specialized research in occupational therapy, B	履修年次:	単位数:	担当教員名: 藤田佳男〔作業療法士〕 (仁戸名研究室 5)
		選択: 作業 4 年	1 単位 15 時間	
			コード: ROP308	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅳ 健康づくりの実践 Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
(1) 卒業論文のテーマを選択提出できる				
(2) 卒業論文の倫理審査提出受理されることができる				
(3) テーマに則して研究計画の目標を立てることができる				
(4) テーマに則して研究計画のプロトコル作成手順にいて作成できる				
(5) 卒業研究の発表 (プレゼンテーション) ができる				
(6) 論文の書式にしたがって論文の執筆・提出ができる				
〔授業の概要〕				
保健・医療・福祉の分野において、作業療法の高度化するニーズに対応する必要がある。本科目は、学生の各自の問題・課題の意識を動機付けにした分野・テーマに取り組む。分野・テーマは「 <u>高齢者・障害者の自動車運転や地域移動支援について・福祉用具や IT 支援ついて</u> 」または、 <u>その関連した内容に取り組む</u> 。選択したテーマの作業療法の専門的な知識や技術を修得する。				
キーワード: プロトコル作成, 研究計画, 研究テーマ				
〔授業計画〕				
回 数	テーマと内容			
第 1 回	テーマ: 「高齢者・障害者の自動車運転や地域移動支援について・福祉用具や IT 支援ついて」 内容:			
第 2 回	1. 学生は、問題・課題の意識を動機付けにした上記テーマに取り組む			
第 3 回	1) 学生は、研究テーマを述べることができる。			
第 4 回	2) 学生は作業療法学特論の指導について、自ら助言・相談を教員より積極的に受けることができる。			
第 5 回	3) 学生は研究を実践する過程で、解決方法を見出すための助言・指導等 (臨床実習期間を除く) の講義を受ける事とする。学生は担当教員と相談の上、実質講義・指導時間が 15 時間は確保される事とする。)			
第 6 回	2. 作業療法学特論の指導される目標は以下に示す。			
第 7 回	1) 学生は研究を開始するに当たり必要に応じ、研究デザインに応じた作業療法学専攻の倫理審査を受ける準備を述べることができる。			
第 8 回	2) 学生はデザインした研究を開始するための実験、調査等の準備を述べることができる。			
	3) 学生は計画した実験、調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整について述べることができる。			
	4) 学生は実験、調査等データの解析と解釈について、根拠を述べることができる。			
	5) 学生が卒業研究発表と卒業論文として記述する方法を述べることができる。			
	6) 卒業研究論文は執筆要領に沿った論文の原稿作成、投稿の準備について述べることができる。			
履修条件		特になし		
予習・復習		受講する担当教員の適宜指示に従うこと。		
テキスト		担当教員が適宜指示する		
参考書・参考資料等		担当教員が適宜紹介する。		
学生に対する評価		課題 (60%), 学習態度 (40%) により、総合的に評価する。(学生評価については、履修登録前に各担当教員へ確認すること)		